



編集・発行 公益財団法人 AFS 日本協会 岩手支部
 支 部 長 瀧 本 忍
 事務局 〒020-0045
 岩手県盛岡駅西通一丁目7番1号
 県民活動交流センター受付
 レターケース番号12
 (公財) AFS 日本協会 岩手支部
 支部 TEL 070-1501-3423
 メール: info-iwate@afs.or.jp
 http://www3.afs.or.jp/tohoku/iwate/
 印 刷 (有)九戸印刷 (久慈市)

AFS いわて

異文化交流の楽しさを岩手へ

公益財団法人 AFS 日本協会 岩手支部長 瀧 本 忍

今年度の岩手支部の留学生は、年間生3人でのスタートです。これは岩手支部の全盛期とも言えます。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

- *ネレ【Germany】：葛巻高等学校
- *マイヤー【Finland】：一関第一高等学校
- *ジュリエタ【Argentine】：不来方高等学校

支部長3年目を迎えた私が、とうとうホストファミリーを経験することになりました。我が家は共働きで大人しかいません。プライベートで話す相手はカーナビやテレビ。そんな我が家に来た留学生は、アルゼンチンのジュリエタ。世界最南端の都市ウシュアイアから来た、とてもチャームングで陽気な17歳の女の子。61期に我が娘がお世話になった国もアルゼンチン。希望が叶って“恩返し”のチャンスが到来しました。

まず留学生の受け入れ3か月前、私の断捨離が始まりました。家の中を本気で片づけたいと思っていた夢がまず実現しました。

ジュリエタとの生活は、毎日がわくわくの連続です。

彼女が日本の文化や言語を真剣に学ぼうとする姿勢に刺激を受け、気がつけば私達は、翻訳機片手にジェスチャーを交え言葉の意味を伝え合っています。私達が今まで考えたこともない日本語の曖昧さや言葉の音の面白さ、日本人の考え方の傾向に気づかされる日々。毎日が新しい感覚で過ごしています。また私の義父は、ジュリエタに「おじーちゃん！」と何度も呼んでもらい笑顔が増えました。飼い犬のロッキーは、ジュリエタの帰りを心待ちにしている、ちぎれんばかりにしっぽを振って大歓迎。我が家の会話と笑顔が増えたのは言うまでもありません。

“恩返し”と共に、自分自身の成長や家族の在り方を考えさせられる良い機会となり、アルゼンチンへの感謝の念は募るばかりです。

ジュリエタの日本での高校生活を家族として支え、異文化交流の楽しさをジュリエタと関わるみなさんと共有しながら過ごしたいと思います。

【AFS 岩手支部 - #AFSeffect で繋がろう】 <http://www3.afs.or.jp/tohoku/iwate/>

第 65 期 年間派遣生紹介 (2018年出発)

- | | | | |
|-------------|---------------------|---------|--------------------|
| 冬出発・コスタリカ派遣 | 藤井 和胡さん (盛岡第四高校) | | |
| 夏出発・ポルトガル派遣 | 菊池 流音さん (八戸聖ウルスラ学院) | ハンガリー派遣 | 佐川 穂香さん (盛岡白百合学園高) |
| フランス派遣 | 和田 夢唯さん (不来方高校) | フランス派遣 | 田山 美月さん (不来方高校) |

只今留学中

たくさんの出会い

64期イタリア派遣 松田 凜花 (盛岡第一高校)

イタリアに留学して5ヶ月が経ちました。気づけば留學生活の半分以上が過ぎていて時間の経過がとても早いのを実感しています。

私はこの5ヶ月間、イタリアで生活して沢山の事を経験してきましたが、その中でもイタリア人の国民性に強く感心しています。イタリア人というと、ただただ陽気で能天気というイメージを持っていました。それは確かに事実で、彼らはとにかく歌ったり踊ったり喋ったりすることが大好きです。毎週末のようにパーティーに行き夜中もしくは夜が明けるまで踊ったり、学校の終業式がダンスパーティーだったり、正直付いて行くのに精一杯なくらいパワフルです。そして、本当に優しく人間味に溢れています。毎朝会うたびに「調子はどう？」と声をかけてくれたり、こっちに来なよと一人であるところを気にかけて誘ってくれたり、なんでこんなに親切なのか不思議になってくるくらい優しいです。また、楽しい時間は思いっきり楽しみ、悲しい時はこっちも同情してしまうほど悲しみ、怒っている時は大声で怒鳴りつけたり、感情豊かです。

それに加えて、日々実感していることは、自己主張・自己表現がはっきりしているところです。自分は何を考えていて何をしたいのか本当にはっきりしています。そしてストレートに相手に伝え合うので、最初の頃はかなり戸惑ったけれど、今では自分も意見をイタリア語で主張できるようになってきて、友達と話すのがとても楽しいです。これらのことは日本人とは全く違って、人として自分も身に付け

たいことでもあるし、将来社会で生きていく上で最も大事なことだと改めて感じました。

私は学校でイタリア語、スペイン語、フランス語、英語、ラテン語など主に言語を勉強しています。最初の3ヶ月はイタリア語が全く理解できず、言いたいことも伝わらず、もどかしい日々でした。しかし、自分でも勉強を頑張って積極的にイタリア語で会話したりしているうちに今では英語に頼らず、方言さえも理解し使いこなせるようになって来ました。イタリア人の友達も情熱的にイタリア語を教えてくださいます。

残された時間は約130日。帰国の日のことを考えると、今ですら涙が出てくるくらいイタリアを離れたくない気持ちでいっぱいです。また、ファミリーや友達も帰らないで〜とかあなたがいけない生活など信じられないと言ってくれます。それくらい沢山のの人に愛され、助けられ、感謝してもしきれないくらい充実した日々を送っています。感謝の気持ちを常に忘れず、毎日を思いっきり楽しんでいきたいです。



「No niin で前進」

64期フィンランド派遣 小川 志織 (盛岡白百合高校)

長いようで短い留學生活も残り4ヶ月弱となりました。この6ヶ月間、私は何も学ばなかったという日が1日も無かったと思います。フィンランドのことだけでなく、自分自身についてもたくさんの発見がありました。日本での当たり前が、フィンランドでは当たり前でなかったり、日本では体験したことがない、または体験できないようなことがフィンランドでは当たり前だったり、本当に驚き、発見の毎日です。私が一番感動したのは、「何故」を考える授業です。既に日本で習ったことがたくさん、様々な授業で出てきました。そして先生方に、「これはもう日本で習った？」と質問され、「はい。」と答えると、「じゃあ何故こうなるか説明してもらえ？」

とさらに問われることが多々あります。しかし私はほとんど「何故」ということが分からずに、ただただ暗記していたことが多かったため、小学校で習ったようなことも「何故」を答えることができません。自分は毎回そのような時にとても恥ずかしい気持ちになります。と同時にフィンランドの「何故」を考える授業の素晴らしさを実感しています。確かに暗記しなければならないこともあると思います。しかし「何故」を考えることによって、新しいことをたくさん学べると思います。私は、これから日本に帰ってからも、少しずつもっと「何故」を考えるようにし、知識を増やし、自分の意見をしっかり言えるような高校生になりたいと思います。

毎日学びの充実した留學生活を送っていますが、やはり苦勞はいろいろな面でしています。何も苦勞していない留學生など居ないと思います。人間関係と、言語が私の一番の苦勞だと思います。私は友達

やホストペアレンツとは上手く行っているのですが、ホストシスターに苦勞することがあります。6ヶ月経った今でも、どう対応したら良いのか分からない時があります。しかしそんな時はフィンランド人の親友だけでなく、同じ留学生などに相談に乗ってもらい、ひとつひとつ解決するようにしています。また言語ですが、やはり少し文法面で苦勞していますが、いろんな人に何度も言い方を聞いたり会話を聞き取るようにして、使えるだけ使い、間違っていたらその都度直してもらおうようにしています。毎日の積み重ねの大切さはここで一番感じています。

何故私がタイトルを「No niin で前進」にしたかということ、no niin はフィンランド語の中で最も重要な語句の1つだからです。これはどんなところで使えます。例えば no niin sitten menn ä än です

「Vie délicieuse en Belgique」

64期ベルギー(仏語圏)派遣 阪本祐理子 (盛岡白百合高校)

Bon jour! ベルギーに留学中の阪本祐理子です。今はフランスのノルマンディーでホストファミリーとバカンスを満喫しています。散歩が好きなのでノルマンディー生活1日目に一人で近所を散歩したら少し迷ってしまいました。そこでたまたま見かけた農場の人と話した所、朝ごはんを食べたい人だと勘違いされ自家製バターとジャムでトーストをご馳走になってしまいました。たまらなく美味しかったのですが、朝ごはんをご馳走にならない程度の語学力を身に付けなければと切に思いました。今一番の問題は語学力のなさです。

このバカンスは聖バレンタインのバカンスでその機会を使ってこの文章を書いています。ベルギーには小さなバカンスが沢山あり、学年末に3カ月のまとまったバカンスがあります。(バカンスにはほとんど宿題はできません。“バカンスは休むものだ”とホストマザーは言っています。日本のように休み中も早寝早起きという概念はありません!) 私は、文章を書くのはあまり得意ではないので文章がおかしくても見逃してください。

私は、ベルギーのトゥルネーという世界遺産の街の学校に通っています。学校の授業内容は日本とほとんど変わりありませんが、一コマ目は8時15分からと少し朝が早いです。一番の違いだと感じることは、昼休みの長さや部活がない事、そして私服登校だということです。皆さんの学校の昼休みはどのくらいですか? 私が日本で通っていた学校は35分でした。ところがベルギーは1時間35分です! あまりに長いのでいつも時間を持て余し気味です。その代わり、週に3回昼休み中に授業があります。そして、嬉しいことに毎週水曜日は午前授業なのです!

私のホストファミリーは、ホストマザーとホスト

と、「それじゃあ行こう」、「さあ行こう」などという意味になります。さあなにになしようという時などによく使います。ですから no niin で辛いことなどがあっても前へ進もうという意味でこのタイトルにしました。このタイトルの通り、残り4ヶ月弱自分なりに前進していきたいと思っています!



ワンハットというプロムのとき友達と撮った写真です。

ファザーとホストブラザーとホストシスターの4人です。なんとホストハウスは、フランスにあります! 家から国境までは500メートルくらいで毎日国境を越え通学しています! 文章にすると大げさですが国境には特に何もありません。(ガソリンスタンドはある) シェンゲン協定でフランスとベルギーは結ばれているので勿論パスポートも不要です。

ホストファザーは、陽気で冗談好きです。私が日本で見たことがある海外ドラマを紹介したところ、どハマリしたようで二人で観ています。主人公が早口なので理解するのに閉口しています。ホストブラザーは日本に留学していたので日本語が上手ですがほとんど話してくれませんが(フランス語上達の為)が、いざという時にとても頼りになります。ホストマザーは、仕事が忙しいのですが毎日のホストマザーの料理は絶品です。特に野菜と鶏肉のコンソメ風のスープが美味しいです。ホストシスターは、音楽が好きでよく部屋から音楽が流れてきます。ホストファミリーはとても親切です。

あっという間に留学期間の半分が過ぎてしまった気がします。残りの期間も無駄にせず、ベルギーでの生活を楽しまたいと思います。



ポルトガル派遣 菊池 流音 (八戸聖ウルスラ学院)

派遣先が決定し、まず私がしたことは現地の言葉^{ポルトガル語}を学ぶことでした。本を買ったり、Youtubeの講座動画を見るなどして勉強しています。しかし挨拶や、自己紹介をすることもままならず改めて

言語を学ぶ辛さを痛感しました。留学への抱負は何事にも挑戦することです。今まで触れたことが無い言語や文化を体験するにあたって、自ら積極的にチャレンジしていきたいです。また、出発前、出発後と状況が変わっても努力することを継続していきたいと思っています。

ハンガリー派遣 佐川 穂香 (盛岡白百合学園高校)

私は50年ほど前に来日したハンガリー出身の方から、マジカル語やハンガリーの文化を教わっていただいています。マジカル語は英語にも日本語にもない発音で難しいのですが、先生は「あなたは若いんだからすぐに覚えられるわよ!頑張りましょう!」と私のことを励ましながら丁寧に教え

て下さいます。最近、やっと挨拶を覚えることが出来ました。

私は出発したら、自分が一方的にハンガリーのことを学ぶのではなくホストファミリーやホストスクールの友達に日本のことも教えてあげたいなと思っています。日本の良さや文化などをしっかりと教えられるように、出発までの間は日本についての勉強も頑張りたいです。

フランス派遣 和田 夢唯 (不来方高校)

AFS 65期生として、派遣国がフランスと決定してから約半年が経ちました。フランスについて調べていて、夏、フランスに行けることをとても心待ちに今を過ごしています。今、留学に向けて出来ることは言語学習とその地域の雰囲気を事前に知っておくことだと思います。学校で、週4回

フランス語を学んでいます。まだ文法、単語に苦戦していますが、フランスで充実した生活ができるようにある程度の理解できるレベルまで勉強していきたいです。そして、高校生活の1年間を日本ではなくフランスで過ごすので、今のうちに部活や学校行事を楽しんで、フランスで様々なことを学び、高校生活にプラスできる留学体験にしたいと思っています。

フランス派遣 田山 美月 (不来方高校)

数ヶ月後から始まるフランスでの生活に胸を膨らませながら、日本での思い出をたくさん作っています。私の留学での目標は、一生衰えない思い出と大きな刺激と夢を手に入れることです。フランスでは、

パーティーに行くこと、国境を歩くこと、サーカスを見ること、オペラ座に入ることなど、書ききれないほどやりたいことがあります。よく分からない不安から自分の選択を疑うこともありますが、せっかくの大きなチャンスを無駄にしないよう出発までの準備に励みたいです。

秋年間受入留学生



ネレ・マハニック
Nere Mahanique
(葛巻高校・ドイツ)

私はドイツから来た^{ネレ}音恋 マハニックです。陸上部に入っています。中学校の時から日本に興味があって留学という目的を達成したからうれしいです。今までたくさんを経験をほめて、友達作って、日本の学校生活をすごしています。今の住んでいる町の名前は「くずまき」です。くずまきの冬は本当に寒いでおけど、小賣機も、スキーやスノーボードやること出来て、うれしいです。毎日の自習時間の日本語勉強を頑張ります。でも日本語勉強だけじゃなくて、日本の伝統にも興味があり材のご勉強は。日本とドイツの文化と伝統は違いますが、この違いはいいことだと思います。文化と考え方に興味がありますので、「かんぱき社会なんていいし、文化に良いも悪いも無いと思います。やり方は違っていても同じゴールを目指していることを理解することだと思うです。私はこれからも、もっとも世界を知りたいにもっともたくさん文化の違いを経験していきたいです。

「帰国して気付く自分の変化」

64期スイス派遣 佐藤 辰哉 (一関第一高校)

スイスで過ごした11か月はあっという間でしたが、目をつぶると今でも、様々な思い出がありありと思い出されます。この留學生活が私に与えたものはとても多く、留學前の自分と比べても、あの頃の自分はまだまだ幼かったなあと、はっきり成長を感じ取ることができます。

小さい頃からずっと惹かれていたスイスですが、実際の生活は私の期待を裏切りませんでした。都市部でも自然に恵まれ、登山をしたり、湖で泳いだり…。スイス人の多くは自然の楽しみ方をよく知っています。振り返ってみると、私は留學中に大変な苦勞はしなかったなと思います。もちろん言いたいことがうまく伝わらなかったり、初めてのことに戸惑った時期はありましたが、それらを辛いとは思いませんでした。でも今思うと、こんなに全てが円滑に進んだのは周りの人たちにずっと支えられていたからでした。全ての留學生が楽しいことばかりではありません。ホストファミリーの、現地で知り合った人々の優しさがあったからこそ、こんなに素敵な留學生活を送れたのだと気付きました。彼らには本当に感謝してもしきれません。

正直に言うと、私にとっては留學中よりも日本に帰って来てからの方がずっと辛かったです。逆カルチャーショックがここまで強いとは思ってもみませんでした。慣れ親しんだ国のはずなのに、考え方や価値観など、合わなくなっていることの多さに気付き愕然としました。しかし今では少しずつ日本の環境にも再適応して、やっと前に進んでいる気がします。

8月に私のホストファミリーは、スウェーデ



ンから2人目の留學生を受け入れました。ダブルプレースメントをするというのは思ってもみませんでした。お互い留學生としての苦勞を分かち合えたり、日本とスウェーデンの文化を共有し合えたり、本当に仲の良い友達になりました。今では彼がいたからこそこの留學生活だったと思います。AFS留學の魅力は派遣先の国だけでなく、世界中から集まった留學生と交流できることです。日本に帰って来てテレビを見ているときなどに、「これは日本特有の考え方だな」とか、「この問題はスイスやスウェーデン、中南米ではどうなのだろう」などということをして自然に考えていて、これが国際感覚というものか！なんてことを思いました。

学校を1年休学しましたが、私は今、留學することを決めて本当に良かったと思っています。去年1年で見聞きしたものは、普通に日本の高校で勉強して、大学に行くという過程では絶対に得られません。この経験をこれからの進路にも活かしていきたいと思っています。

最後に、AFS協会と奨学金関係者の皆様には本当に感謝しています。ありがとうございました。

春年間受入留學生



マイヤ

Muhonen Maija Kaarina
(一関第一高・フィンランド)

いほんドつてフ
べんごににはたに
きもはははたに
うおなははたに
もきおはははた
したるものにか
たいめうのちき
ですにうせんが
いしうです
うけん
めいに



ジュリエタ

Marcovecchio Julieta
(不来方高校・アルゼンチン)

こんちは。私はジュリエタです。十七歳です。アルゼンチンのウシュアイアから来ました。二年前から日本語をべんきょうして、日本の文化と言葉をもっとふかくなぶこと。十月の間にごまやまなことをけいけんしたいと思っております。がんばります。

■ 2019年派遣(第66期)生 中学生・高校生募集

高校時代の留学は、異文化の中に置かれた自分を見つめて、「新しい自分を発見する旅」です。
皆さんも世界と自分を知るために応募してみませんか？

一般選考A・B・C・D日程

A日程 募集期間：4月16日(月)～5月24日(木)
試験日：6月10日(日)
選考会場：盛岡(盛岡駅西口アイーナ)

B日程 募集期間：4月16日(月)～6月28日(木)
試験日：7月15日(日)
選考会場：盛岡(盛岡駅西口アイーナ予定)

C日程 募集期間：8月1日(水)～9月13日(木)
試験日：9月30日(日)
選考会場：仙台
対象国：募集継続国(AFSホームページで確認してください)

D日程 募集期間：10月12日(金)～11月1日(木)
試験日：11月18日(日)
選考会場：仙台
対象国：募集継続国(AFSホームページで確認してください)

試験内容：英語(ELTiS・80分)、一般教養(30分)
の筆記試験と面接(15分程度)

選考手数料：21,600円

詳細はAFSホームページで確認のこと

平成29年度 岩手支部収支報告

収入の部	寄付金	65,000円
	会費	81,000円
	その他の収入	405,440円
	協会本部より	171,108円
	繰越金	1,111,000円

収入合計 1,833,548円

支出の部	支部管理費	755,375円
	協会本部分	41,108円
	次期繰越金	1,037,065円

支出合計 1,833,548円

「いわてのお米、 とてもおいしい！」

J A全農いわて様には2010年より
留学生に支援米を提供いただいております。
異文化交流への温かい応援に感謝申し上げます。



AFS 留学生ホストファミリー募集

～いちばん身近で、心に残る国際交流～

各国から来日したAFS留学生が、ボランティアの一般家庭に滞在しながら地域の高等学校に通学し、文化・社会への理解を深める、高校生の交換留学プログラムです。

- ◆受入対象国◆ アジア・北米・中南米・西欧・東欧・オセアニアの国々
- ◆ホストファミリーの条件◆ 単身でないご家庭で、ボランティアで留学生を家族の一員として受け入れ、食費を含む生活費を負担して下さるご家庭(通学費・医療費・AFS行事参加費はAFSが、小遣いは本人が負担します)。
- ◆受入期間◆ プログラムにより1ヵ月、5ヵ月、10ヵ月の受入となります。
- ◆お申し込み方法◆ AFSホームページから「ホストファミリー申込書」を入手し、必要事項をご記入の上、郵送またはFAXで岩手支部事務局にお送り下さい。

会費等の納入ありがとうございました。

昨年度も皆様からAFS岩手支部にご支援を頂き、誠にありがとうございました。会費、ご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただき、ご協力に心から感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

《会費》 井上 義博 阪本 和子 瀧本 俊一 藤森 雅子 盛島 寛 松田 彩 中村 道典
富田 正 工藤 弘幸 小川 春美 菅田理加子 平井 博夫 中川 玲子 中野 浩子
晴山 健二 山口 碧 諏訪 君雄 松田 文平 藤森 正文 日向真理子 佐藤 和好
宇野 勝行 谷川 晴宣 川村 俊幸 村上 晶子 小笠原菜凜 藤井 博

《寄付金》 大畑佳代子 佐藤 和好 富田 正 村上 晶子 J A全農いわて(ホストファミリー支援米)

会費のお願い 今年度も支部会費のご協力をお願いします。

支部会費：年 3,000円(支部会員)

支部会員(支部員、派遣生保護者、リタナー及び保護者、支部活動に協賛する個人又は団体)

等振込先
支部会費

ゆうちょ銀行 10190-17982571(普通)
口座名義：(公財)AFS日本協会岩手支部

■ご寄付のお願い■ AFSは国際理解教育を推進しています。10代の高校生をはじめとしたより多くの人々に、異なる文化と接する機会を提供できるよう、AFSの活動にご支援を賜りたくよろしく申し上げます。

【ご寄付の方法】(公財)AFS日本協会(支部を含む)への寄付はいくらからでもしていただけます。

※詳しくはAFSのホームページをご覧ください。